

令和2年4月22日

保護者様

羽生市教育委員会教育長

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためのマスクの配付について

保護者の皆様におかれましては、羽生市の教育行政並びに、新型コロナウイルス感染症拡大防止について、御理解と御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

この度、羽生市から市立小・中学校に在籍する児童生徒の皆さんにマスクを配付できることとなりました。これは、市の要請に羽生市産地産業振興協議会が応じ、協議会構成員である市内被服業者、縫製業者、藍染業者の御尽力により実現したものです。

羽生市は「藍染のまち」「衣料のまち」「被服のまち」として知られています。明治時代に青縞（藍染物）の生産・集散地としてにぎわった羽生では、関東大震災を機に洋装化の風潮が生じると、次第に衣類が作られるようになりました。最盛期には200もの紺屋が軒を連ね、400もの縫製や被服工場があり、市外からも多くの人たちが羽生に勤務し、町のどこを歩いてもミシンの音が聞こえたと言います。そのような「藍染のまち」「衣料のまち」「被服のまち」と呼ばれる羽生で今回、被服業者、縫製業者、藍染業者の御協力を得られたことは、羽生市としても大変誇らしいことです。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今回配付したマスクが児童生徒の健康維持の一助となれば幸いです。御活用をよろしくお願いいたします。

じどうせいと みなさん
児童生徒の皆さん

マスクの配付について

「藍染のまち」「衣料のまち」「被服のまち」として知られる羽生市では、明治時代に青縞（藍染物）をつくり、売り買いをする地域としてにぎわいました。その後、着物から洋服を着る人たちが増えると、だんだん衣類がつくられるようになりました。戦後の最盛期には400を超える被服工場があり、市外からも多くの人たちが羽生で働き、町のどこを歩いても、ミシンの音が聞こえてきたそうです。

今回、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、羽生市内の被服工場の皆様のご協力で「児童生徒の皆さん」にマスクをつくりました。

1人につき、2枚のマスクを配付しますので、これからの学校生活などで役立ててください。手洗い・うがいなども忘れずに続けて行いましょう。

はにゅうしきょういくいいんかいきょういくちょう
羽生市教育委員会教育長